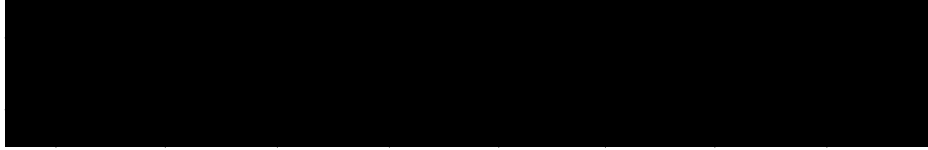


2010年マグロ類

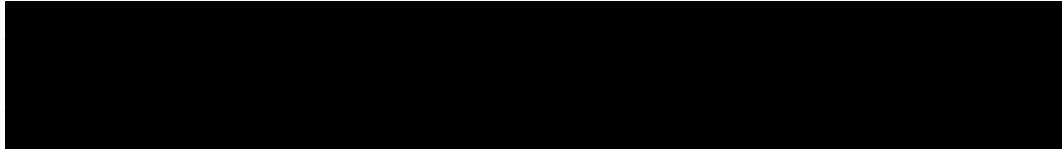
漁獲量

単位：数量，1000トン、価格，円/kg



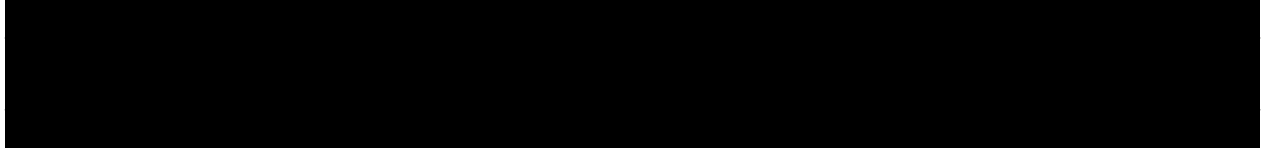
産地水揚量（継続漁港）

流通統計

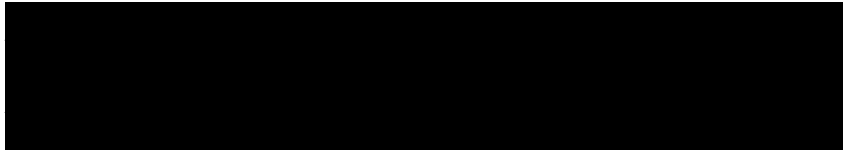


輸入量

通関統計

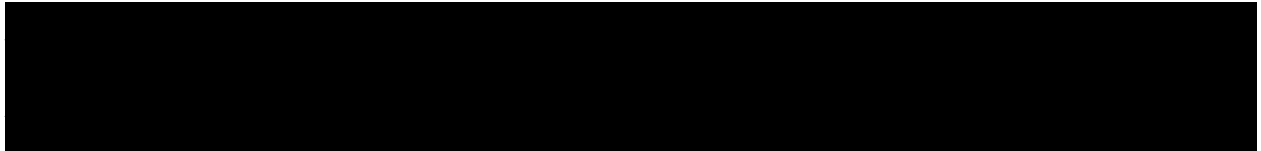


輸出品量（生鮮・冷凍）



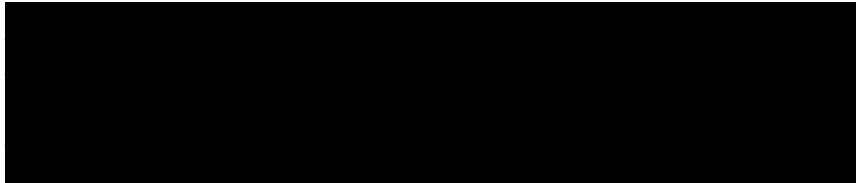
東京消費地入荷量

東京中央卸売市場



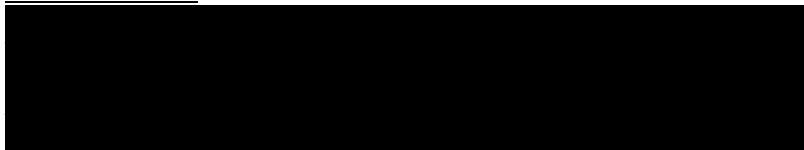
全国平均世帯（1世帯当たり）の消費支出（総務省家計調査）

※マグロ：地域によって異なる（関東はメバチ，関西はキハダ）



月平均在庫量

流通統計



※H21は、
クロマグロ、及び南マグロの内数不明

産地水揚量（継続漁港）

22年のマグロ類の産地水揚量は、8.8万トンで前年（10万トン）を下回った。

生鮮は、4.6万トンで前年（5.9万トン）をかなり下回った。

これはカツオ1本釣りによるビンナガ漁の不振を反映した結果である。

また、北部太平洋海域のまき網本マグロ漁は、昨年は672トンの漁獲があったが、本年は低調で22トンの漁獲にとどまった。また、近海のメジマグロは依然の水準的には昨年同様低かった。一方近年の主力の山陰、九州北部では、盛り上がりには欠け、九州で上半期にややまとまった程度で、山陰では低調で、昨年を大きく下回った。また、境港のまき網本マグロ漁は、数量では前年（16,448本、864トン）を下回る18,409本、654トンで1尾平均36kg（前年53kg）に終わった。特に小型マグロの漁獲が多かった。小型延縄による本マグロの漁獲は悪かった前年を更に大きく下回り、凶漁といってもよい水準であった。

冷凍は4.2万トンで前年（4.1万トン）をやや上回った。

近年の西経域（東部太平洋域）を主体とする大型延縄船の漁は低調になっており、またインド洋でも海賊の出没もあって操業船も少なく、どの海域も1トンを超える漁があるのはレアケースになっている。

日本海本マグロ水揚実績(境港)

年	操業統数	本数	数量(kg)	平均体重(kg/尾)	金額(千円)	単価(円/kg)
S57	17	11,838	1,404,146	119	948,828	676
58	10	4,324	488,339	113	681,434	1,395
59	15	4,488	697,409	155	858,308	1,231
60	5	2,086	320,585	154	221,428	691
61						
62	4	2,555	198,702	78	194,208	977
63	15	5,552	473,939	85	829,909	1,751
H元	6	2,858	278,516	97	444,310	1,595
2						
3	9	2,407	194,906	81	402,436	2,065
4	9	4,880	344,328	71	390,821	1,135
5	3	1,801	70,035	39	109,300	1,561
6	8	14,041	603,844	43	424,736	703
7	7	6,484	431,387	67	308,459	715
8	10	4,715	391,327	83	393,641	1,006
9	16	5,847	615,546	105	441,784	718
10	12	5,589	283,050	51	381,989	1,350
11	19	9,565	502,173	53	519,783	1,035
12	12	7,829	649,447	83	377,379	581
13	5	2,193	207,702	95	235,112	1,132
14		6,862	723,665	105	503,992	696
15	20	6,858	436,163	64	574,054	1,317
16	46	32,310	1,702,500	53	1,387,828	816
17	70	46,114	2,985,591	65	2,638,963	884
18	62	21,666	1,778,109	82	2,479,158	1,394
19	59	45,079	1,978,114	44	2,556,955	1,293
20	68	44,502	2,228,756	50	3,033,361	1,361
21	36	16,448	863,777	53	1,089,943	1,262
22	31	18,409	654,100	36	935,442	1,430

輸 入 量

22年の輸入は、19万トンで前年（18.1万トン）をやや上回った。

本年は生鮮が減少、冷凍が増加となった。また生鮮はキハダのみが増加し、冷凍は国内漁が不振であったビンチョウが大幅に増加した他、キハダも増加した。その結果マグロ類の輸入は、やや増加した。

また、脂身物や上赤身物の減少に伴い、年々増加している養殖物（本マグロ、南マグロ）の2010年生産量は、地中海9,050トン（前年:1万6,370トン）、豪州8,500トン（前年:8,500トン）、メキシコ2,500トン（前年:1,300トン）、日本国内9,600トン（前年:8,537トン）で、全体では地中海での減産を受けて前年を下回った。本年の特徴は、日本国内養殖は、依然生産量は増加傾向がみられたが、しかし地中海ものは、規制等影響もあって本年も減少傾向が続いた。またメキシコでの生産は回復基調となった。

なお現在までの養殖マグロ生産＝供給は、97年0.5万トン、98年0.6万トン、99年1.4万トン、2000年1.5万トン、2001年1.9万トン、2002年2.43トン、2003年3.7万、2004年3.3万トン、2005年3.5万トン、2006年3.7万トン、2007年3.6万トン、2008年3.4万トン、2009年3.3万トン、2010年3万トンとなっている。

在 庫 量

本年のマグロ類の月平均在庫（ビンナガも含む）は、4.6万トンでほぼ前年（6.2万トン）をかなり下回った。

本年在庫が少なかったのは、1つは在庫統計の調査客体の減少もあり、従来の80%のカバー率になったことと、特に国内漁の不振が反映されている。

消 費 地 入 荷 量

22年の東京消費地入荷量は、4.6万トンで前年（4.8万トン）を引続きやや下回った。

本年の特徴は、生鮮が横ばい傾向を保ったが、冷凍が依然減少傾向を示していることである。魚種別でみると、増産傾向にある養殖本マグロが多かったのが目立ったのと、近海漁が良かった生キハダが引続き増加した以外は軒並み前年を下回った。冷凍は扱いが少ないキハダやビン長が増加した他は、特にメバチの減少が顕著になった結果である。

価 格

(単位：円/kg)

流通統計, 東京都中央卸売市場

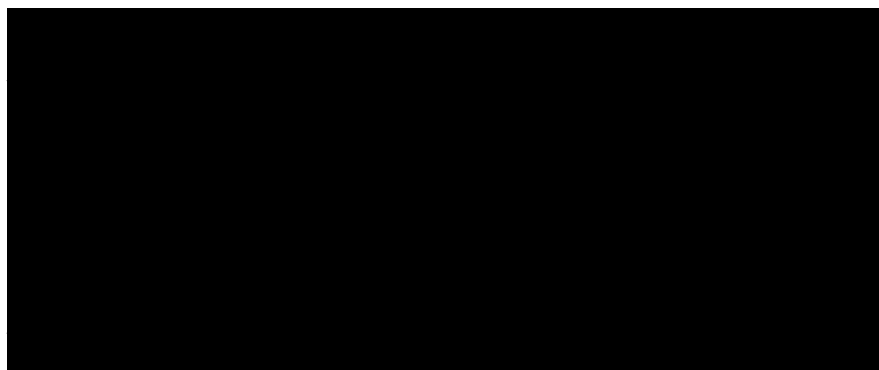
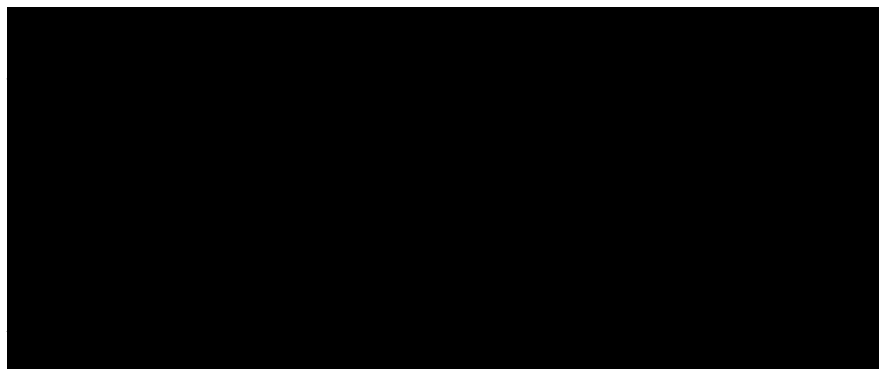
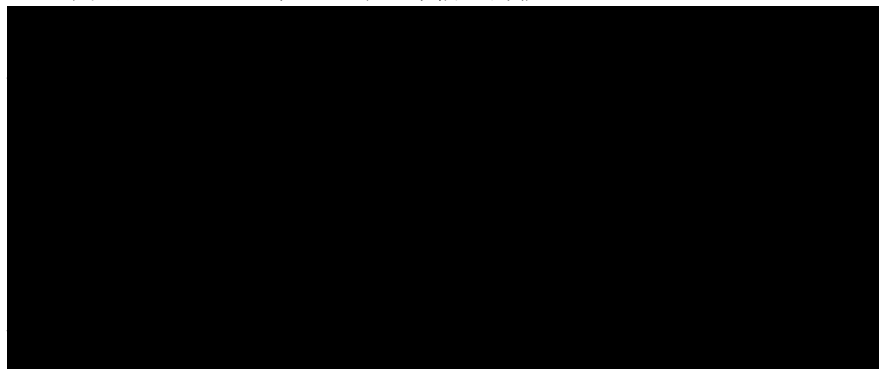
22年のマグロ類の産地価格は、生鮮・冷凍とも前年を上回って推移し、久しぶりに全魚種堅調な推移となった。

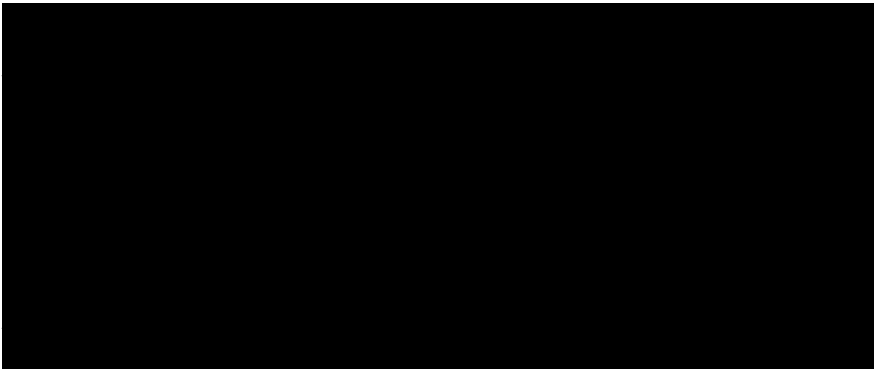
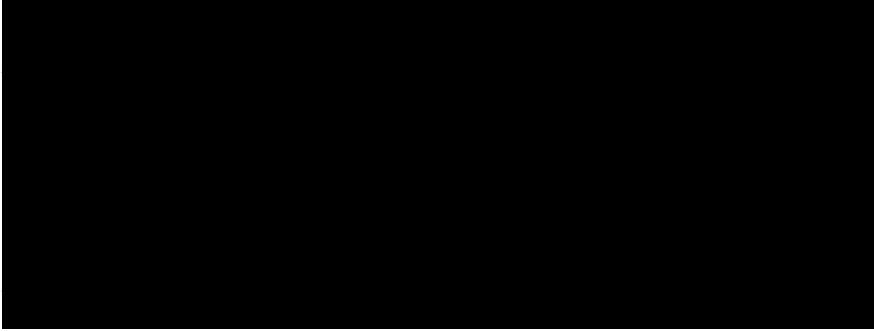
22年の消費地価格は本マグロが生・冷とも前年を下回ったほかは、南マグロ、メバチ、キハダとも横ばいからやや堅調な推移であった。

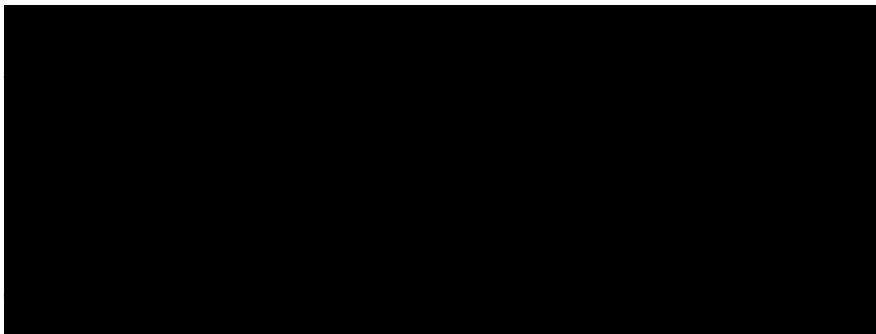
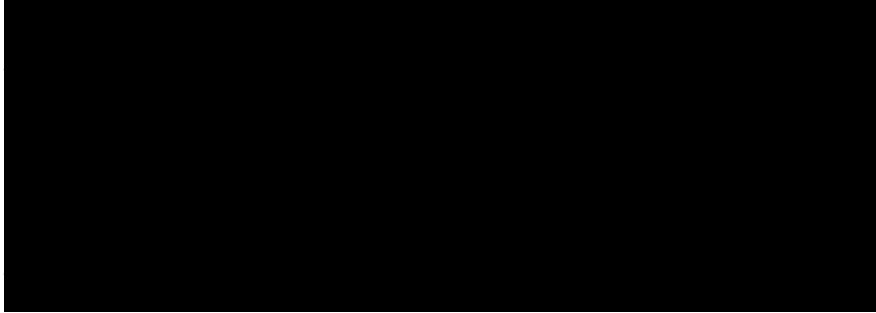
また家計調査によると、マグロ単体、刺身盛り合わせとも数量、金額を引続き減らし、厳しい消費の結果が出た。また、外食寿司についても、昨年をやや下回っており、やや客足に陰りが見え始めている。

日本近海（北部太平洋海域）まぐろ魚体組成

2000年以前のデータは、2009年の原稿に掲載







資料：輸入マグロ類の実績

